

めあて

学習したことを生かし、将来どれくらいごみを減らせばよいのかグラフから予想し、実際にごみの量を示しましょう。

発展課題 3

ごみは、クリーンセンター等で燃やされた後、灰（新たなごみ）になり埋立地に埋められます。京都市の埋立地は、東部山間地域に「エコランド音羽の杜」がありますが、その 1 か所のみです。50 年後にその埋立地はごみでいっぱいになると予測されています。新たな埋立地をつくるには、広大な土地を準備する必要があり、簡単な話ではありません。持続可能な社会（SDGs の観点）を創っていくためにも、まずはできる限りごみを減らす努力が必要です。エコランド音羽の杜の埋立地が、60 年後、70 年後、・・・100 年後まで使用できるようにするためには、一人一日あたりのごみの量はどれくらいまで減らせばよいのでしょうか。

また、今どれくらいの量のごみを出しているのか、100 年後にはどれくらいの量までごみを減らせればいいのか、実際にごみを用意し（きれいに洗った、空き缶やトレイなど）、私たちが意識してごみを減らせるように、具体を示しましょう。



<https://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000103/103986/toshiseisou2.pdf>

参考

- ・埋立地は 50 年後にはごみでいっぱいになる。
- ・令和 3 年度、一日一人当たり約 400 g（家庭ごみ）出している計算

学習課題や学習手順例（ヒント）

- ① 「一日一人当たりのごみの量（g）」と「埋立地がいっぱいになる年数（年）」の関係をグラフ、表、式に表す（提出物）
 （ヒント）・「一日一人当たりのごみの量（g）」と「埋立地がいっぱいになる年数（年）」のどちらかを「 x 」or「 y 」にする
 ・10年 - ?(g/日)、20年 - ?(g/日) …50年 - 400(g/日) …100年 - ?(g/日)
- ② 残り80年間、100年間、埋立地が使えるようにするためには、
 「一日一人当たりのごみの量（g）」は何グラムにすればよいかを求める（提出物）
- ③ 10年後に埋立地がいっぱいになってしまうとき、1日あたり何gのごみを出すことになるのか求める（提出物）
- ④ 1日400gのごみの量、100年間埋立地が使えるようにしたときのごみの量を実際に、空き缶やトレイなどを使って表す。（写真で撮る）
- ⑤ 100年間埋立地が使えるようにするために、1日400g出しているごみの量をどれだけ減らせばよいかわかるチラシ（パワーポイントでもOK）を作る
※必ず、グラフ、表、式、を使うこと（できれば提出物）

提出1（必須）

①～③（④）の3点（4点）をつなげて

提出する

もしくは、

自分なりにわかりやすくまとめたものを提出

提出2（できれば）

⑤のみを提出する